

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

出願人代理人

田宮 寛社

様

あて名

〒 107-0052

日本国東京都港区赤坂1丁目1番12号 明
産溜池ビル8階International Examination
Report

PCT

国際調査機関の見解書
(法施行規則第40条の2)
[PCT規則43の2.1]発送日
(日.月.年)

13. 7. 2004

出願人又は代理人
の書類記号

FP0402PCT

今後の手続きについては、下記2を参照すること。

国際出願番号

PCT/JP2004/003851

国際出願日

(日.月.年) 22. 03. 2004

優先日

(日.月.年) 23. 07. 2003

国際特許分類 (IPC)

Int. Cl.⁷

G01N13/16

出願人 (氏名又は名称)

日立建機ファインテック株式会社

1. この見解書は次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 見解の基礎
- ☐ 第II欄 優先権
- ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
- ☐ 第VII欄 国際出願の不備
- ☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日

28. 06. 2004

名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)
郵便番号100-8915
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号特許庁審査官 (権限のある職員)
遠藤 孝徳

2 J 3 2 1 0

電話番号 03-3581-1101 内線 3251

第 I 欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

- ☐ この見解書は、_____ 語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出された PCT 規則 12.3 及び 23.1(b) にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

- a. タイプ ☐ 配列表
☐ 配列表に関連するテーブル
- b. フォーマット ☐ 書面
☐ コンピュータ読み取り可能な形式
- c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる
☐ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された
☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	2, 4, 8, 10-16	有
	請求の範囲	1, 3, 5-7, 9	無
進歩性 (IS)	請求の範囲	8, 16	有
	請求の範囲	1-7, 9-15	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-16	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明

文献1: JP 10-267948 A (オリンパス光学工業株式会社)
1998. 10. 09, 全文, 全図

には、複数のカンチレバーを保管するセットステーションとセットステーションの位置を移動させるXYステージと、装着状態のカンチレバーの位置を観察する光学顕微鏡とを備える走査型プローブ顕微鏡において、セットステーションから一つのカンチレバーを選んで支持ユニットに装着するステップと、カンチレバー装着後に、XYステージによって移動する凸部によりカンチレバーを移動させることにより、装着されたカンチレバーを光学顕微鏡の観察視野の所定位置に設定するステップと、を含む走査型プローブ顕微鏡の探針交換方法が記載されている。

文献2: JP 2000-329772 A (日立建機株式会社)
2000. 11. 30, 全文, 全図

には、走査型プローブ顕微鏡の探針を交換した後に、調整機構によって光学顕微鏡を移動させることにより、カンチレバーを光学顕微鏡の観察視野の所定位置に設定する技術が記載されている。

文献3: JP 2002-323426 A

(セイコーインスツルメンツ株式会社) 2002. 11. 08, 全文, 全図
には、光学顕微鏡を備えた走査型プローブ顕微鏡において、光学顕微鏡で得られる画像を利用してパターン認識および画像処理を行い、自動的に焦点を合わせる技術が記載されている。

文献4: JP 10-104245 A (株式会社ニコン)
1998. 04. 24, 全文, 全図

には、走査型プローブ顕微鏡において、レーザー光源の位置を調整し、自動的に光軸調整する技術が記載されている。

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V.2 欄の続き

請求の範囲 1, 3, 6, 9

請求の範囲 1, 3, 6, 及び 9 に係る発明は、国際調査報告で引用された文献 1 に記載されている。

請求の範囲 2

請求の範囲 2 に係る発明は、国際調査報告で引用された文献 1 及び文献 2 により進歩性を有しない。文献 1 に記載された探針交換方法において、文献 2 に記載された、光学顕微鏡を移動させることによりカンチレバーを光学顕微鏡の観察視野の所定位置に設定する技術を採用することは、当業者にとって容易である。

請求の範囲 4, 1 2

請求の範囲 4 及び 1 2 に係る発明は、国際調査報告で引用された文献 1 及び文献 3 により進歩性を有しない。文献 1 に記載された探針交換方法において、文献 3 に記載された、パターン認識および画像処理を行う技術を採用することは、当業者にとって容易である。

請求の範囲 5

請求の範囲 5 に係る発明は、国際調査報告で引用された文献 1 に記載されている。文献 1 (特に【0030】及び【0031】を参照されたい。) には、カンチレバー先端を観察視野の中心位置に設定する事項が記載されている。

請求の範囲 7

請求の範囲 7 に係る発明は、国際調査報告で引用された文献 1 に記載されている。文献 1 に記載された探針交換方法における凸部は、カンチレバーホルダの内部側面を押す押し部材である。

請求の範囲 1 0, 1 1, 1 3

請求の範囲 1 0 乃至 1 3 に係る発明は、国際調査報告で引用された文献 1 乃至文献 3 により進歩性を有しない。文献 2 には、レーザー光源の位置を調整し光軸調整する技術が記載されている。また、文献 1 に記載の探針交換方法において、デジタル信号処理の過程でカンチレバーの先端位置は数値 (座標) として記憶されていると認められる。

請求の範囲 1 4, 1 5

請求の範囲 1 4 及び 1 5 に係る発明は、国際調査報告で引用された文献 1 乃至文献 4 により進歩性を有しない。文献 3 【0032】には、パターン認識技術を用いてカンチレバーの種類を判別し、カンチレバーの種類に応じた測定条件に切り換えることにより高度な測定自動化を行うことが記載されている。文献 4 には、レーザー光源の位置を調整し自動的に光軸調整する技術が記載されている。

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V.2 欄の続き

請求の範囲 8, 16

請求の範囲 8 及び 16 に係る発明は、国際調査報告で引用された文献のいずれにも、記載も示唆もされていない。